

平成30年度全体研究総括**I 研究主題**

生きがいのある豊かな生活の実現を目指して

～「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を位置づけた授業づくりを通して～

II 設定の理由

平成29年度末の校内研究アンケートでは「授業づくり」「新学習指導要領」をあげる職員が多く、興味・関心の高さが伺えた。そこで、アンケート結果を踏まえながら、以下の点から主題を設定することにした。

一つ目は、本校の学校目標の目指す先である。本校では、本年度より学校目標を新たに「仲間とともに、今を主体的に」と掲げ、児童生徒一人ひとりが、「今」、生きがい・やりがい・手応えを感じられる生活を目指し、取り組んでいる。本目標が「今」を重要視しているのは、生きがい・やりがい・手応えを感じながら生活している「今」を積み重ねることで、将来の生活がより充実したものになるだろうという考えからである。児童生徒にとって「今」は、つまり毎日の学校生活であり、授業である。

二つ目として、新学習指導要領である。改訂に伴い、新学習指導要領では、卒業後の視点を大切にしたカリキュラム・マネジメントを組織的かつ計画的に行うことが規定され、教育活動全体を通して育成を目指す資質・能力の三つの柱が示された。全ての教科等の目標および内容が再整理されたことに伴い、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」(アクティブ・ラーニング)の視点での授業改善を、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行うことが求められている。これらの三つの学びの視点は、本校の教育理念である「生きがいのある豊かな生活の実現」との親和性も強く、必要不可欠な視点であると考えられる。

以上の二点から、新学習指導要領に示された「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」という三つの学びの視点で本校の教育活動全体を見直した授業づくりを行うことで、本校の学校目標達成に近づけるのではないかと考えた。平成30年度研究では、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの学びの視点を位置づけた授業づくりを通して、教育活動全体を見直したい。

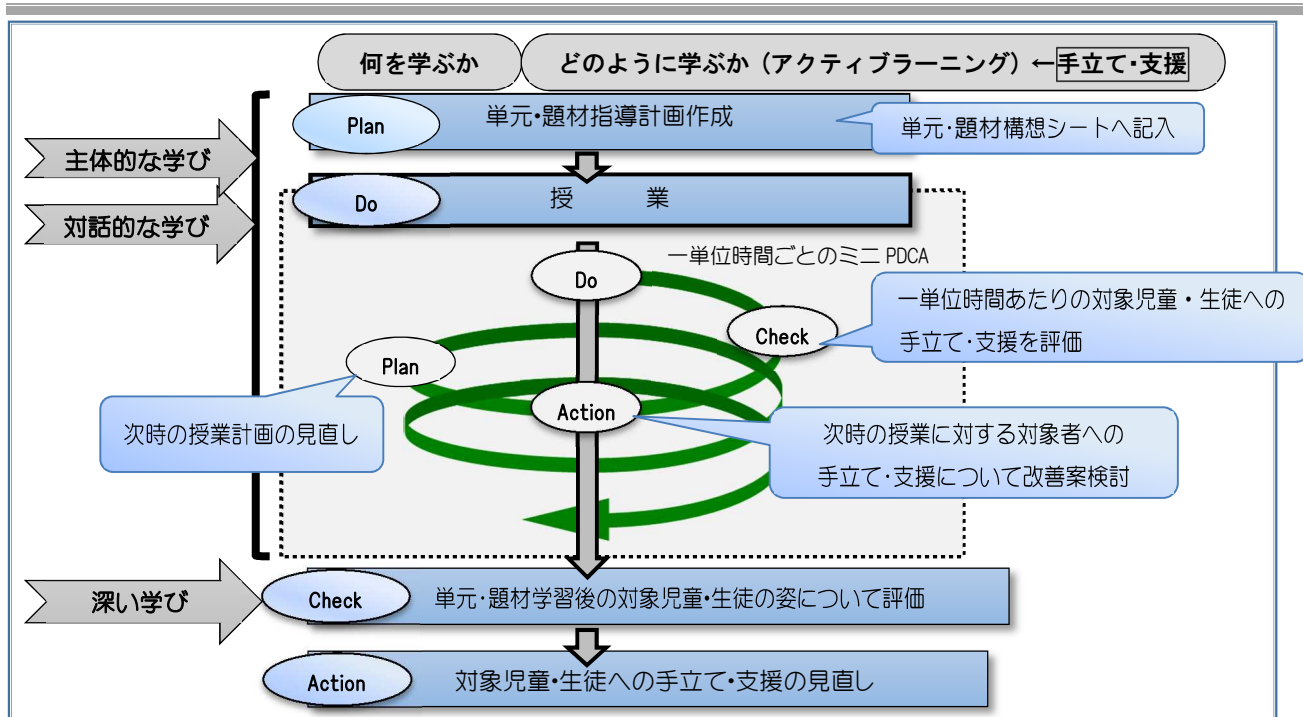
III 研究の目的

学校全体(寄宿舎、各分教室も含む)で、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの学びの視点で授業づくりに取り組み、「生きがいのある豊かな生活の実現」を目指す。

IV 研究内容・方法

- 1 新学習指導要領に示された、改訂の基本的な考え方や教育内容等の改善事項に関し、共通理解をもつ。
- 2 各学部・寄宿舎・各分教室における研究グループで、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの学びの視点で授業づくりを行う。単元・題材の全体計画検討にあたり、対象者を抽出し、その児童・生徒が『どのように学ぶか』、つまりその児童・生徒に対し『どのような手立てを組むか』『どのような支援をしていくか』について計画(Plan)し、授業を行う(Do)。単元・題材の授業終了後、手立て・支援に対する改善点をグループで話し合う。(Check・Action)
- 3 研究授業および授業研究会については以下の通りとする。
 - (1) 研究授業は、グループごとに計画する。
 - (2) 授業を行うにあたり、新たに指導案は作成する必要は特にない。既に作成済みの単元・題材構想シートを活用し、対象児童・生徒に対する「学習のねらい」と「主体的な学びを引き出す手立て・支援」「対話的な学びを引き出す手立て・支援」を参観のポイントおよび研究会での検討材料とする。
 - (3) 授業研究会は、授業を実際に参観、あるいは授業ビデオの参観をした上で行う。ただし、本研究では、三つの学びに視点を置いた授業づくりを目標としており、単元・題材など内容や時間のまとまりを見通したものと異なるため、授業研究会で検討するのは一単位時間分の授業とは限らない。
 - (4) 研究授業参観者および授業研究会参加者は、基本的にグループ内職員とする。

V 研究構想図（平成 30 年度研究：1 年次研究）



STEP1 < 単元・題材指導計画 (Plan) >

単元・題材の指導を通し、目指したい「深い学び」(ゴール像)を達成するために必要な「主体的な学び」「対話的な学び」の視点での手立て・支援を検討する。「単元・題材構想シート」へ記入。

STEP2 < 授業 (Do およびミニ PDCA) >

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の三つの視点を意識しながら実際に授業を行う。授業後、児童・生徒の様子をもとに、支援・手立てについて振り返りを行い、次時につなげる。

STEP3 < 振り返り・反省・改善案検討 (Check・Action) >

単元・題材の指導を通し、目指したい「深い学び」(ゴール像)を達成するために必要な「主体的な学び」「対話的な学び」の視点で授業していたか、どこを変更・修正すれば、対象の児童・生徒に対する手立て・支援としてより良いのか検討し、次の単元・題材の授業づくりにつなげる。

VI 平成 30 年度研究推進計画

研究対象授業に対する授業計画および、授業後の改善案(手立て・支援方法)について検討する。

単元・題材構想シートを活用し、対象児童生徒の変容をもとに次時の授業について話し合う。

期日	全体	学部・グループ	主な内容
5月 2日(火)	第1回全校研究会		○平成30年度全体研究について(主題他提案)
6月 6日(水)	研究日①全体		○具体的な方法・推進日程提案
7月 9日(月)		研究日②	○学部・グループごと(研究対象授業および児童生徒検討) ○授業計画(単元・題材構想シート記入)等各学部計画による
9月 11日(火)		研究日③	○授業改善検討会 各学部計画による
10月 12日(金)		研究日④	○授業改善検討会 各学部計画による
11月 26日(月)	第2回全校研究会		中間報告
12月 13日(木)		研究日⑤	○グループごとのまとめ 各学部計画による
1月 21日(月)		研究日⑥	○学部研究のまとめ
2月 25日(月)	第3回全校研究会		○平成30年度全体研究のまとめ ○次年度研究の方向性について

Ⅶ 平成 30 年度研究の成果と課題

各学部・分教室・寄宿舎それぞれの取り組み※1、および、まとめアンケート※2から分かる本年度研究の成果と課題は以下の通りである。

※1 取り組み状況等については別項参照 ※2 まとめアンケートの結果は、p. 4 Ⅷ 資料を参照のこと。

1 成果

(1) 小グループでの研究推進方法に関して

- ア 三つの柱、三つの学びについて確認しながら単元・題材構想シートでの検討、意見交換を行うことで、グループ間の共通理解を図ることができた。
- イ 一緒に活動することが多い指導者単位のグループだったため、忌憚なくねらい、手立て・支援のあり方について意見交換を行うことができた。手立てや支援は研究対象以外の学習場面にも生かすことができた。
- ウ 日頃の指導を「単元・題材構想シート」にまとめ、可視化することで、授業のねらい、指導の手立てや支援方法について職員間で確認しやすかった。またゴールや学習のねらいを見据えながら日々の指導にあたることができるため有効であった。
- エ 授業づくり・授業改善(寄宿舎においては日常的な活動)を取り上げたことで、日々の生活の中で指導ができ、負担なく取り組むことができた。

(2) 授業づくり・授業改善について

- ア 三つの学びを意識するようになった。
- イ まとめアンケートにおいて「今後の児童生徒の様子を見ないと分からないから」が5%あったものの、本研究が「授業づくり・授業改善に役立った」と回答したのが20%だったことから、授業づくり・授業改善への一助となった。

2 課題

(1) 新学習指導要領についての研修不足

- ・ まとめアンケート、学部・分教室から出された課題として、「新学習指導要領の内容がよくわからない」「主体的な学びについてはなんとなく分かるが対話的な学びや深い学びがよくわからない」があげられた。

(2) 単元・題材構想シートの形式改善の必要性(以下、案として挙げられた内容)

- ・ 児童生徒の評価がしやすいもの。具体的な目標三観点(「知識・技能」「思考・判断・表現」「関心・意欲・態度」)の導入。
- ・ 授業づくり・授業改善に役立てやすい「より見やすく書きやすい、かつシンプルなもの」
- ・ 手だて・支援の評価、改善案を記号化し、記号のあとに具体的な内容を記述
- ・ 手だて・支援の評価、改善案それぞれの項目立てし、生徒の様子ではなく、手だて・支援に対する評価を記述

3 考察

- (1) 研究推進方法として、小グループ単位で研究を進めたこと、単元・題材構想シートを活用したこと、授業づくり・授業改善を研究の中心としたことは、多忙化の中で負担なく進めることができ、かつ職員間で共通理解をした上で授業や指導に生かすことができたのでよかったのではないかと考える。次年度においても、小グループ単位での研究、単元・題材構想シートの活用、授業づくり・授業改善を中心とした研究を進めたい。
- (2) 平成30年度研究では、研究内容を授業づくり・授業改善とし、主に教師の手立て・支援に焦点をあて、「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を引き出す手立て・支援について検討した。しかし、三つの学び、特に「深い学び」のあり方についての捉えがなかなか難しく、また、この三つの学びを三つの柱(「生きて働く知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」※p5 IX 資料参照)につなげていくためにはどうすればよいのか、悩みながらの検討であった。アンケートや各学部等グループのまとめで「新学習指導要領についてよく分からなかった」という意見があげられたのは、三つの柱と三つの学びの抑えが不十分だったからだと考えられる。

しかしながら、研究主題「生きがいのある豊かな生活の実現を目指して」の設定のもととなった学校目標「仲間とともに、今を主体的に」が、新学習指導要領の三つの柱、三つの学びとリンクしていたことから考えると、柱と学びを別々に考える必要もない。むしろ、シンプルに学校目標「仲間とともに、今を主体的に」を達成するための授業づくり・授業改善に取り組むことにより研究主題に迫ることができ、かつ新学習指導要領の三つの柱、三つの学びを実践していくことにつながるのではないかと考える。とはいえ、新学習指導要領に関する知識が不足していることは周知のとおりであることから研修の機会を作っていく必要がある。

(3) 平成30年度研究は主として三つの学びに焦点をおき、これまでの授業実践を新学習指導要領の三つの学びに当てはめた場合のような手立て・支援を行っているか検証し、結果的に授業づくり・授業改善において一定の成果を収めることができた。ただし、新学習指導要領の方向性として、「何ができるようになるか」(三つの柱)そのために「何を学ぶか」「どのように学ぶか」(三つの学び)が示された。これは、これまでの教師主導の授業ではなく、児童生徒主体であることを念頭において実践していくことを示唆している。

そこで、平成31年度研究では、平成30年度研究を発展させ、児童生徒主体の授業に重きをおき、研究を進めていく必要があると考えた。三つの柱は、「生きて働く知識・技能の習得」「思考力・判断力・表現力等の育成」「学びに向かう力・人間性等の涵養」であり、その三つの柱に対する観点は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」で評価されるが、これらの観点のうち、「主体的に取り組む」授業が展開されることで、必然的に「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」が伴い、身につけられるのではないかとという仮説を立ててみたい。そのことにより平成30年度研究で課題とされた三つの柱と三つの学びとのつながりも解消されるのではないかと考える。

Ⅷ 平成31年度研究ならびに研究推進計画について

平成31年度研究では2年次研究として、平成30年度研究を引き継ぎ、発展させた研究を行う。

(1) 研究推進方法

- ① 単元・題材構想シート(改良版)の活用した小グループでの授業検討会(学部授業検討会)
- ② 研究授業・授業研究会の実施、開かれた授業研究会(公開研究会)の実施

(2) 研究内容…「主体的に学習に取り組む態度」を育成する授業づくり・授業改善

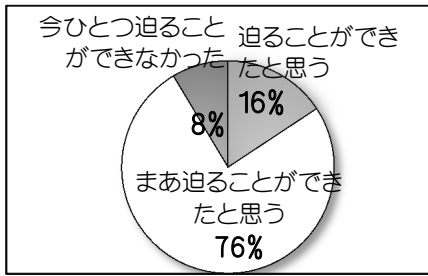
(3) 研究推進計画(全…校内全体、G…学部・分教室・寄宿舎等の小グループ)

月	全 体	主 要 内 容
4月	第1回全体研究会	(全) ○平成31年度全体研究について(主題他提案)
5月		研究会①(G) ○グループ、年間計画(研究授業・指定授業)検討
6月	授業研究会	研究会②(全) ○
7月	研究授業・授業研究会	研究会③(G) ○研究会②を受け、研究授業・授業研究会
9月		研究会④(G) ○各グループごとの授業検討会
10月		研究会⑤(G) ○各グループごとの授業検討会
11月	開かれた授業研究会	○指定授業(小中各1、他公開授業)、授業研究会(分科会)
12月		研究会⑥(G) ○各グループごとのまとめ
1月		研究部 ○各学部・分教室・寄宿舎のまとめ
2月	第2回全体研究会	(全) ○全体研究のまとめ ○次年度研究の方向性について

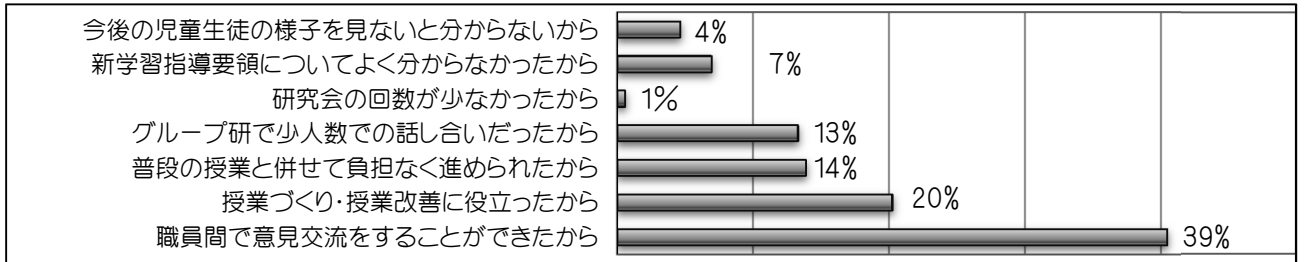
VIII 資料

(1) まとめアンケート結果 (対象:本校・分教室教職員、回答数:70)

① 研究主題に迫った研究を進めることができたと思うか。



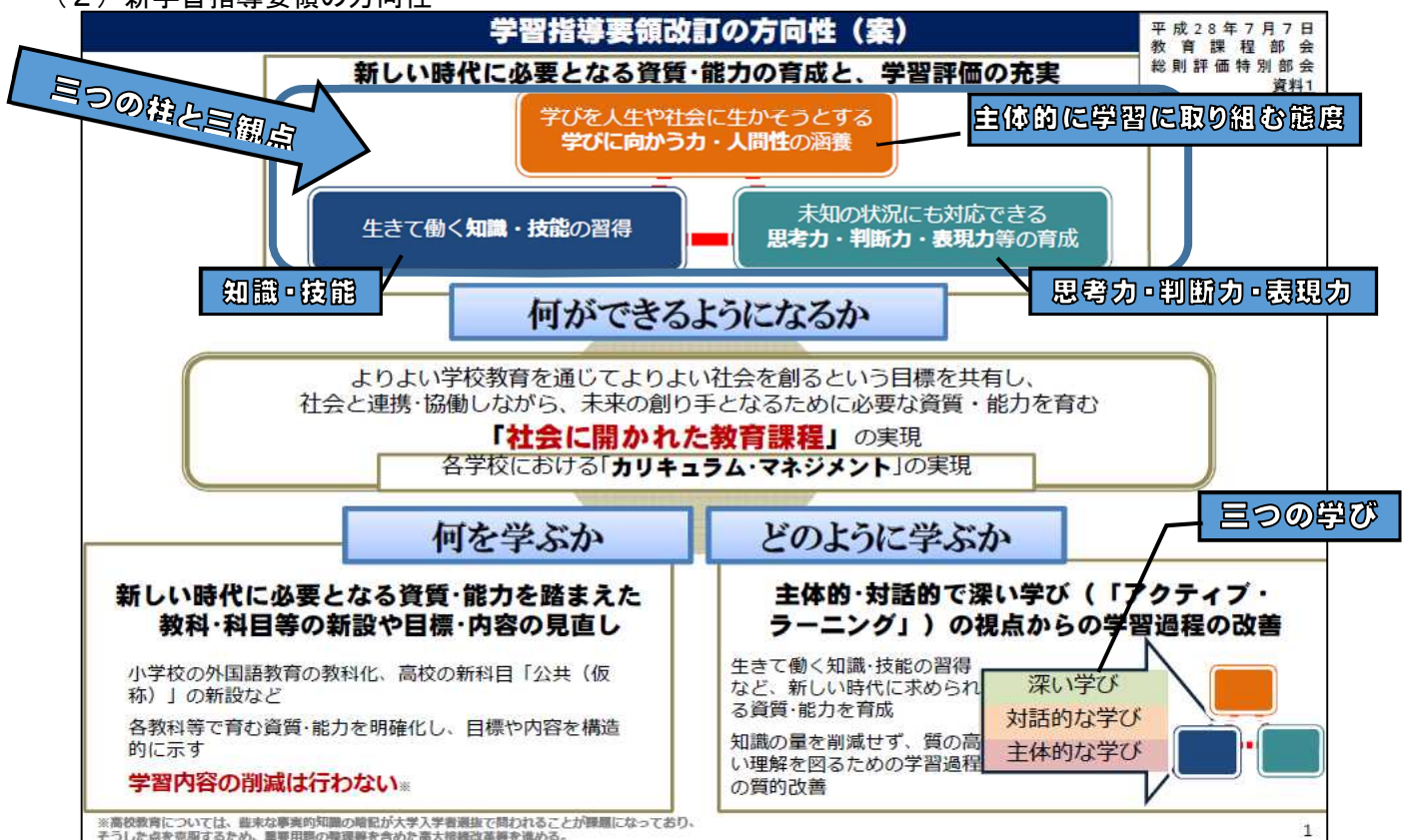
② 質問1について選択した理由(複数回答可)のべ数:179)



選択肢以外の理由

- ・ 研究主題を明確にし、対象化することにより常に意識を高く持とうとするきっかけになったのでは？(①では「迫ることができた」を選択)
- ・ 次年度は、主体的・対話的で深い学びの考え方について整理し、より理解を深めていきたい。(①では「まあ迫ることができたと思う」を選択)
- ・ 指導要領の勉強会をしようと考えていたが、できなかったから。
- ・ 「三つの学び」についての認識・理解を深められなかった。甘かった気がする。
- ・ なかなか人が集まらず話し合いの時間をもつのが難しかった。

(2) 新学習指導要領の方向性



<小学部>

1. 今年度の研究について

(1) 進め方・目的等確認したことなど

毎週行っている学団会を活用して単元構想シートの検討を重ねながら授業作りを行い、学部研究会で進捗状況の確認と意見交換を通して研究を進めることを確認した。

(2) グループ編成

小学部では、研究主題を受けて普段授業を行っている低学団（1・2年）、中学団（3・4年）、高学団（5・6年）の、学団毎に3つの研究グループを編成し、重複障害学級、訪問学級も該当の学団に入ることとした。

低学団	①体育：ボールであそぼう（9、10月） ②生単：秋祭りをしよう（10月） ③音楽：夏の歌を楽しもう（8、9月）
中学団	①生単：北上ヤングボウルへ行こう（9月） ②生単：こたままつりで、みんなで楽しく発表しよう（10月）
高学団	①体育：ボール運動（9月） ②生単：こたままつりのステージ練習をしよう（10月） ③生単：クリスマス会をしよう（12月） ④体育：風船バレーをしよう（11、12月）

2. 今年度実施した研究経過

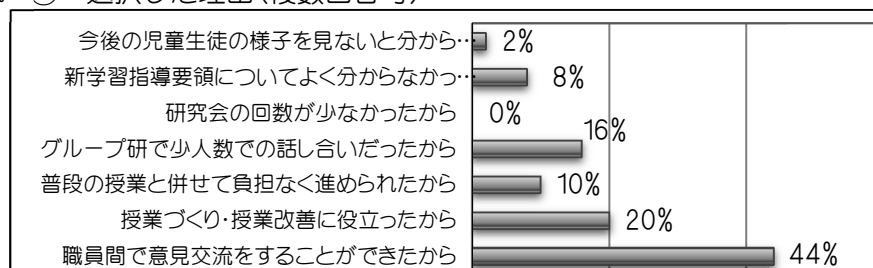
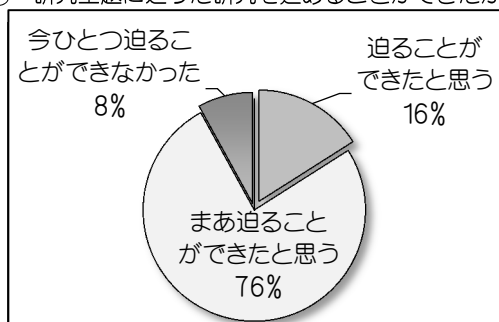
期 日	全 体	主な内容	
5月 2日(火)	第1回全校研究会	・平成30年度全体研究について	
6月 6日(水)	研究日①全体	・具体的な進め方の検討	
7月 9日(月)	研究日②(学部①)	・研究グループの確認、年間計画の検討	
9月 11日(火)	研究日③(学部②)	・単元・題材構想シートの記入、意見交換	
10月 22日(月)	研究日④(学部③)	・単元・題材構想シートの記入、意見交換	
11月 26日(月)	第2回全校研究会	・中間報告	
12月	13日(木)	研究日⑤(学部④)	・単元・題材の目標の振り返り、意見交換
	26日(水)	研修報告会	
1月 28日(月)	研究日⑥(学部⑤)	・平成30年度学部研究のまとめ	
2月 25日(月)	第3回全校研究会	・平成30年度全体研究のまとめ ・次年度研究の方向性について	

※研究過程で記入した「単元・題材構想シート」の記入事例は、4. (資料) 単元・題材構想シートを参照。

3. 考察

(1) まとめアンケートから(回答数25)

① 研究主題に迫った研究を進めることができたか。 ② 選択した理由(複数回答可)



<小学部>

② 選択肢以外の理由

- ・研究主題を明確にし、対象化することにより常に意識を高くもとうとするきっかけになったのでは？（①では「迫ることができた」の選択）
- ・次年度は、主体的・対話的で深い学びの考え方について整理し、より理解を深めていきたい。（①では「まあ迫ることができた」の選択）

（２）成果と課題

ア 全体研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

研究主題に迫ることができたかについては、92%が「迫ることができた」「まあ迫ることができた」と回答しており、概ね達成できたと考えられる。「今ひとつ迫ることができなかった」と回答した2名は、その理由として「新学習指導要領の内容について分からなかった」を選択しており、次年度は、より新学習指導要領の内容を深めながら、実践に落とし込むことが必要と考える。

単元・題材構想シートについては、28%が改善した方がよいと回答している。改善提案としては、項目はこのままで良いが、より見やすく、書き込みやすく、シンプルなものと良いとの意見があり、シートを活用した授業改善に積極的に取り組むための提案と考える。また、内容については、目標を三観点にする、毎回深い学びがあるか分からない、本児の様子と改善案の欄は別にあると分かりやすい、手立ての「主体的な・対話的な」に悩む、自立活動の児童も含めた単元での研究授業があるとよい、ねらいの立て方のポイントを具体的に示せるとよい、等の意見があった。次年度は本校における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の捉え方を追求しながら研究を進めていくことが、新学習指導要領の理解によりつながっていくものと考えられる。

イ 学部研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

学部研究会では、研究に関する資料を提示し、三つの柱、三つの学びについて確認しながら元となる単元・題材構想シートの検討、意見交換を行うことで、グループ間の共通理解を図ることができた。

また、小学部では学団会を活用したことで、負担なく定期的に対象児童の手立てや支援を意識したり確認したりしながら、三つの柱、三つの学びを意識して授業するようになったとの回答が多かった。

次年度は、単元・題材構想シートを活用した授業作りや授業研究会等を通して、小学部における「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」とは何かを、さらに深めていく必要があると考える。

<小学部>

4. (資料) 単元・題材構想シート (H30)

(H30年3月岩手県立総合教育センター『資質・能力の「三つの柱」を総合的にはくむ授業の在り方に関する研究』の考え方・資料を参考にし、花清バージョンとして作成)

学部	学年・グループ	教科/単元・題材名	対象児童・生徒	研究グループメンバー(〇…代表者)
小	低学団	生活単元学習(秋祭りをしよう)	S・Y	

1 単元・題材の目標【ゴール像:目指したい「深い学び」(何ができるようになるか)】

友達や教師と一緒に山車を引っ張ったり、ダンスやゲームをしたりすることができる。

(普段、集団を意識せず、一人で取り組みたい様子が見られるため)

2 単元・題材の指導計画と主たる学び

小単元名 (時数・日にち等)	学習グループ全体の 学習内容	対象児童・生徒に対する 学習のねらい	対象児童・生徒への手立て・支援 ㊤: 主体的な学びを引き出す手立て・支援 ㊦: 対話的な学びを引き出す手立て・支援	手立て・支援の評価・改善案
10月1日(月) 秋祭りの準備 をしよう。	秋祭りについて内 容を理解する、	・秋祭りについて理解する ことができる。 ・友達の活動について興味 をもつことができる。	主:教師が写真や具体物で説明する。 対:友達と一緒に取り組んだり、友達の 活動の様子を見る場面設定をする。	主:秋祭りに使う山車を作り終 わった後、何度も山車を見 に行った。 対:友達が山車に飾りを張る様 子をよく見ていた。
中略	様々な相手と、同じ活動を繰り返し行うことで見通しをも つことができ、主体的・対話的な学びにつながった。			
10月10日(水) 3年生と秋祭 りをしよう。	3年生と秋祭りを 楽しむ。	・秋祭りを楽しむことがで きる。 ・友達や教師と一緒に活動 することができる。	主:教師が写真や具体物で説明する。 対:3年生の子どもの写真を見せて一緒 に取り組むことを伝える。3年生と一 緒に活動する場面設定をする。	主:山車を意欲的に引っ張った り、ゲームを楽しむ様子が 見られた。 対:3年生の友達と一緒にダン スすることができた。
10月12日(金) 佳代先生と 秋祭りをしよ う。	佳代先生と秋祭り を楽しむ。	・秋祭りを楽しむことがで きる。 ・友達や教師と一緒に活動 することができる。	主:教師が写真や具体物で説明する。 対:佳代先生の写真を見せて一緒に取り 組むことを伝える。佳代先生と一緒 に活動する場面設定をする。	主:山車を意欲的に引っ張った り、ゲームを楽しむ様子が見 られた。 対:佳代先生とダンスをするこ とができた。

3 単元学習後の対象児童・生徒の姿(対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。)

友達や教師と一緒にダンスをしたり、山車を引っ張ったりすることができた。

4 改善点等(手立て・支援は妥当だったか。)

前単元「夏祭り」の単元から「祭り＝楽しい」というイメージをもつことができた。先生や友達を招待することで「仲間と共に」学習できた。

S・Yさんの興味をひく題材を用いたり、山車やダンスなど友達や教師と一緒に活動する場面を設定したりすることで、集団で一緒に活動する楽しさを味わうことができた。

<中学部>

1. 今年度の研究について

(1) 進め方・目的等確認したことなど

「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の視点での授業づくりを行う。

研究日を中心に、学年会や必要に応じて時間を設けて、「単元・題材構想シート」を利用して日々の授業を実践・検証・改善していく。

(2) グループ編成について

学年毎の研究グループとする。ただし、内容・対象生徒によってグループを更に分ける。

1年	2年	3年
生活単元学習（宿泊学習） 日常生活の指導（掃除） 数学（お金） 日常生活の指導（朝の会）	生活単元学習（宿泊学習） 作業学習（リサイクル班） 日常生活の指導（朝の会・帰りの会） 自立活動（人間関係の形成）	生活単元学習（校外学習）各2名 生活単元学習（修学旅行）各2名

2. 今年度実施した研究経過

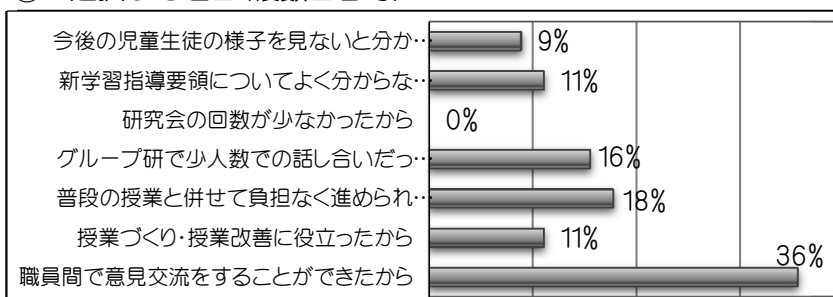
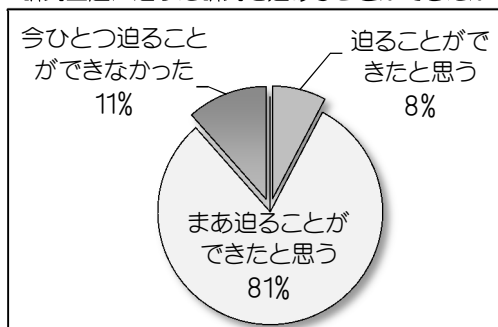
期 日		全 体	主な内容
5月	2日(火)	第1回全校研究会	・平成30年度全体研究について
6月	6日(水)	研究日①全体	・具体的な進め方の検討
7月	9日(月)	研究日②(学部①)	・全体とグループ毎 年間計画（対象生徒等）の検討
9月	11日(火)	研究日③(学部②)	・グループ毎単元・題材構想シート記入または評価①
10月	12日(金)	研究日④(学部③)	・グループ毎単元・題材構想シート記入または評価②
11月	26日(月)	第2回全校研究会	・中間報告
12月	13日(木)	研究日⑤(学部④)	・グループ毎単元・題材構想シート記入または評価③
	26日(水)	研修報告会	
1月	28日(月)	研究日⑥(学部⑤)	・平成30年度学部研究のまとめ
2月	25日(月)	第3回全校研究会	・平成30年度全体研究のまとめ ・次年度研究の方向性について

※研究過程で記入した「単元・題材構想シート」の記入事例は、4.（資料）単元・題材構想シートを参照。

3. 考察

(1) まとめアンケートから（回答数26）

① 研究主題に迫った研究を進めることができたか。 ② 選択した理由（複数回答可）



② 選択肢以外の理由

・「三つの学び」についての認識・理解を深められなかった。

<中学部>

(2) 成果と課題

ア 全体研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

- ・ 「研究主題に迫った研究を進めることができたか」の問いに、「できた」「まあできた」を合わせると90%近くとなった。その要因として「職員間で意見交換することができたから」「普段の授業と合わせて負担なく進めることができたから」「グループ研で少人数での話し合いだったから」が高い割合で挙げられている。
- ・ 一方、同じ問いに「今ひとつ迫ることができなかった」が10%を超えた。その要因として「授業づくりに役立ったが新学習指導要領の内容がよく分からない」「今後の児童生徒の様子を見ないと分からないから」といった理由が挙げられており、また、記述にも「三つの学び」についての認識・理解を深められなかった」とあることから、実際に取り組む期間が短かったことが理由の一つであると考えられる。これらのことから新学習指導要領の内容の理解を今後も深める必要があると考える。

イ 学部研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

- ・ グループ毎の話し合いでは、常に一緒に活動している学習グループであったため、忌憚なくねらい、手立て、支援のあり方について意見交換が行われた。話し合われた手立てや支援は研究対象以外の学習場面にも生かすことができたことは大きな成果だったと考える。
- ・ 「主体的な学び」「対話的な学び」を引き出す手立てを話し合う中で、「対話的な学び」及びその手立て、支援について改めて意識するようになった。
- ・ 「対話的な学び」の概念、解釈について難しさを感じた。今後の課題である。

ウ その他

単元・題材構想シートについて、以下の意見が出された。今後検討していきたい。

- ・ 手立て・支援の評価を「○」「△」で内容を書く。改善案を「●」にすると見やすい。
- ・ 手立て・支援の評価、改善案の項目（枠）が分かれていると良い。
- ・ 記入してみて「手立て・支援の評価・改善案」の欄は生徒の様子になりがちで、「手立て・支援の評価」になっていない。項目のあり方や書き方を工夫し、書きやすいシートになるとよい。
- ・ また同欄については、その左欄「手立て・支援」の評価とし、対応させて記入してはどうか。書き方をみんなで共通理解し進めるとよい。

〈中学部〉

4. (資料) 単元・題材構想シート

記入例1				
学部	学年・グループ	教科／単元・題材名	対象児童・生徒	研究グループメンバー(○…代表者)
中	1年	生活単元学習 宿泊学習	O・Y	

1 単元・題材の目標【ゴール像:目指したい「深い学び」(何ができるようになるか)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊学習の活動内容を理解し、期待の気持ちを持って活動することができる。 ・「分かる」「分からない」や自分の考えを意思表示して活動することができる。 				
2 単元・題材の指導計画と主たる学び				
小単元名 (時数・日にち等)	学習グループ全体の 学習内容	対象児童・生徒に 対する学習のねらい	対象児童・生徒への手立て・支援 ◎:主体的な学びを引き出す手立て・支援 ◎:対話的な学びを引き出す手立て・支援	手立て・支援の評価・改善案
宿泊学習について 知る① (2・8/22) 全体	・期日、場所、目的、活動内容について知る。	・興味・関心を持って説明を聞き、内容を理解することができる。	例: 分かりやすい言葉で端的に伝える。 ※: 表情や質問の返答で理解度を探る。	◎: 生徒にとって分かりやすい言葉を選び、写真を用いて内容を伝えることができた。
宿泊学習について 知る② (1・8/30) 全体	・活動内容を確認する。 ・昼食について知る。	・興味・関心を持って説明を聞き、楽しみな活動を選択することができる。	◎: 興味をもったところごとどこか尋ね、考えさせたり、言葉で表現させる。	◎: ①で、主体的な学びを引き出す手立てについての評価と生徒の様子を表記。 ●で改善案を表記。
中略				
事後学習① (1・9/25)	・写真での振り返り ・しおり記入 ・感想書き	・出来事を思い出し、感じたことを言葉で表現することができる。	◎: 写真を見て一問一答のように、思い出を振り返る。	◎: 一緒に思い出を振り返ることで、感想をすぐに書き始めることができた。 <改善案> ● 出来事や自分の気持ちや考えを付箋に書き、書く題材を選ばせる。
事後学習② (3・9/26)	・感想書き ・小遣い精算	・出来事を思い出し、感じたことを言葉で表現することができる。	◎: 計算機を使用する。 ◎: しおりに鉛筆で線を引き、文字を書きやすくなる。	◎: 実際に買い物をして、自分で小遣いを計算する良い機会になった。 ◎: 丁寧に書く意識を持つ機会を設けることができた。
事後学習③ (1・9/27)	・宿泊学習のまとめ (感想発表) ・目標の反省	・みんなの前で感想を発表することができる。 ・目標の反省をする。	◎: 原稿を作成する。 ◎: 目標の達成が分かりやすいように、できた人の人数で達成度を図る。	◎: 本人の言葉を拾いながら文章にすることで、納得した感想に仕上げることでできた様子だった。生徒の気持ちや考えを汲み取ることができた。

3 単元学習後の対象児童・生徒の姿(対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。)				
<ul style="list-style-type: none"> ・概ね、単元の目標を達成することができた。 ◎ 宿泊活動の内容を理解し、事前学習～宿泊当日～事後学習を通して、期待の気持ちを持ち、楽しかった思い出を振り返りながら活動することができた。 ◎ 「分かる」「分からない」や分かる場合が発言する等、意思表示をして活動する場面が急激に増えた。 ・事前学習、事後学習において自分の考えを挙手して発表したり、感想を書くことができた。 ・様々な先生と話すようになった。 ・宿泊学習のリーダーに立候補して、活動することができた。 ・明るくなった。 				
4 改善点等(手立て・支援は妥当だったか。)				
<ul style="list-style-type: none"> ・妥当であった。 ・支援の手立てを教員同士で共有することができたことが良かった。 ・より具体的な支援の手立て(教材の工夫、視覚化、分かりやすい言葉での説明等)を行うことで、生徒の力が伸びることが考えられる。 ・今後は目標をレベルアップしていきたい。 				

記入例2				
学部	学年・グループ	教科／単元・題材名	対象児童・生徒	研究グループメンバー(○…代表者)
中	2年	作業学習	K・I	

1 単元・題材の目標【ゴール像:目指したい「深い学び」(何ができるようになるか)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・作業内容を理解し、自分がやるべき作業に集中して取り組むことができる。 ・提示した見本通りに製品を作ることができる。 				
2 単元・題材の指導計画と主たる学び				
小単元名 (時数・日にち等)	学習グループ全体の 学習内容	対象児童・生徒に 対する学習のねらい	対象児童・生徒への手立て・支援 ◎:主体的な学びを引き出す手立て・支援 ◎:対話的な学びを引き出す手立て・支援	手立て・支援の評価・改善案
4, 5月	ポチ袋の組み立て、模様付け	・作業の手順が分かる。	◎ 手順を教師と一緒に確認する。 ↓ 一人で取り組み、分からないことがあったら質問をするように話す。 ↓ 見本を提示する(模様、ラメ糊の付け具合など)。	○ 手順を正確にこなすことができる。 ▼ 自分の世界に入りこんでいる様子が見られる。 ▼ 分からないことがあっても、聞くことができない。 ▼ 独り言を言っていることが多い。 ◎ 作業内容を明確に提示する。 ◎ T1への注目するように声かけをする。
前期 校内実習	ポチ袋の組み立て、模様付け	・目標とした枚数を完成させることができる。	◎ グループでの完成目標を考えるように促す。 ◎ 他の班員の2名に、その目標でいか確認するように促す。	○ 作業に慣れてきたこともあり、完成枚数を意識しながら作業に取り組む様子が見られている。 ○ 自分から、全体の前で発表したいという意志が出てきた。 ○ 作業に自信をもって取り組めるようになってきている。 ▼ 目標を達成するために、一つ一つの作業が確になってきている。 → 作業内容の改善 ◎ 作業を数種類組み合わせさせて取り組む。
○で生徒のできた部分の様子を、▼で課題の部分を表記。また、◎で手立て・支援の改善案を表記。				

後略

〈高等部〉

1. 今年度の研究について

(1) 進め方・目的等確認したことなど

日々の授業でおこなっている支援が、新学習指導要領の「主体的な学び」「対話的な学び」に対応しているかを検証しながら「単元・題材構想シート」を利用して日々の授業を評価・改善していく。

(2) グループ編成について

授業が毎日あり授業改善の機会が取りやすい、授業の共有が図りやすい等の利点を考えて、作業班毎での研究グループを編成することとした。

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月
木工班	花巻まつりに向けて		こたままつりに向けて				
紙工班			こたままつりに向けて製品を作ろう			卒業式のしおりを作ろう	
環境整備班					お世話になった教室を清掃しよう		
調理班		弁当作りに向けて				カフェに向けて	
手芸班	ひと市・朝市に向けて		こたままつりで製品を販売しよう				
農作業班		花巻まつりに向けた製品作り	校内販売に向けた枝豆の収穫	こたままつりに向けたネギの収穫			
エコワーク班	花巻まつりに向けて		こたままつりに向けて				
窯業班		花巻まつりに向けて		こたままつりに向けて			

2. 今年度実施した研究経過

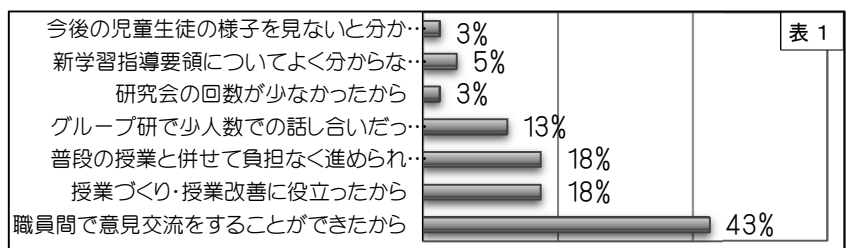
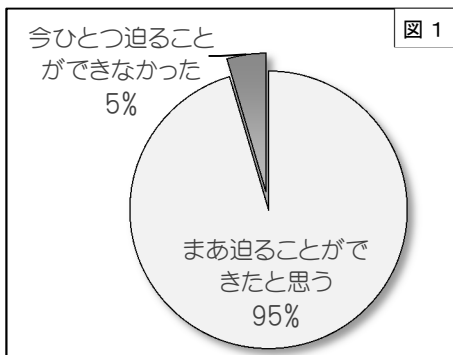
期 日	全 体	主な内容	
5月 2日(火)	第1回全校研究会	平成30年度全体研究について	
6月 6日(水)	研究日①全体	具体的な進め方の検討	
7月 9日(月)	研究日②(学部①)	研究内容、方法確認 グループ決定 年間計画検討	
9月 11日(火)	研究日③(学部②)	単元・題材構想シート記入①	
10月 12日(金)	研究日④(学部③)	単元・題材構想シート評価①	
11月 26日(月)	第2回全校研究会	中間報告(11月～12月中単元題材構想シート記入②)	
12月	13日(木)	研究日⑤(学部④)	単元・題材構想シート評価② 各グループまとめ
	26日(水)	第2回研修報告会	
1月 21日(月)	研究日⑥(学部⑤)	平成30年度学部研究のまとめ提案、検討	
2月 25日(月)	第3回全校研究会	成30年度全体研究のまとめ 次年度研究の方向性について	

※研究過程で記入した「単元・題材構想シート」の記入事例は、4. (資料) 単元・題材構想シートを参照。

3. 考察

(1) まとめアンケートから(回答数22)

- ① 研究主題に迫った研究を進めることができたか。② 選択した理由



② 選択肢以外の理由

- ・なかなか人が集まらず話し合いの時間をもつのが難しかった。
- ・意識して取り組めなかった。
- ・一人一人の意識に関して疑問を感じる。

〈高等部〉

(2) 成果と課題

ア 全体研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

成果 まとめアンケートの「研究主題に迫った研究を進めることができたか」の問いに対し、「まあ迫ることができた」が95%と高い数字だった(図1)。理由として表1より「職員間で意見交流をすることができた」が全体の40%を占めたことから、概ね研究主題に迫る取り組みができたことが伺える。

職員間での意見交流ができた要因として、普段の授業と合わせて負担なく進めることができる研究内容であったことや少人数での話し合いの場が設定できたことがあげられる。

日頃の指導を「単元・題材学習シート」として可視化することで、指導の手立てや支援方法について職員間で確認しやすく、またゴールや学習のねらいを見据えながら日々の指導にあたることができるため有効だったといえる。

課題 図1より「研究主題に迫った研究を進めることができたか」の問いに「今ひとつ迫ることができなかった」が5%と少数ではあったが意見があがった。その要因として表1から新学習指導要領の内容理解がまだ不十分であることがあげられ、今後、新学習指導要領について理解をさらに深める必要がある。

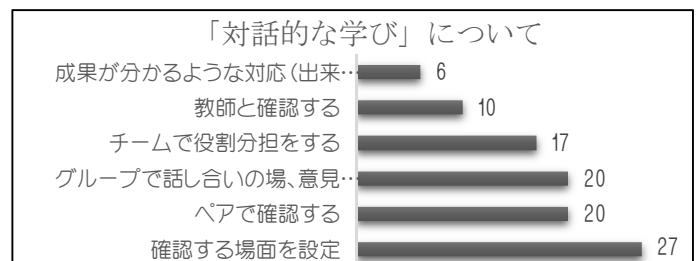
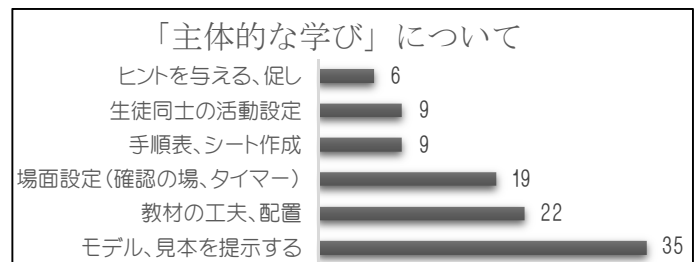
選択肢以外の理由として、「なかなか人が集まらず話し合いの時間をもつのが難しかった」とあり、グループ毎の話し合いの時間を設定することが難しかった。研究日に拘らずグループ毎の実施としたが、研究日の設定の仕方、話し合いの論点の整理等、運営方法について対応が必要である。

イ 学部研究に関して

成果 各作業班で作成した「単元・題材構想シート」をもとに「主体的な学び」「対話的な学び」への手立て・支援の方法について検証したところ、次のことが分かった。

高等部の職員が捉えている、日々の授業の中での「主体的な学び」を引き出す手立て・支援として主に「見本を提示する」「教材の工夫、配置」があげられ、生徒が自分の力で作業できる場面を引き出す手立て・支援が意図的に行われている。

「対話的な学び」を引き出す手立て・支援として「生徒が確認する場面を設定する」「ペアを組んで確認する」「グループでの話し合いの設定」をあげており、他者との対話だけでなく自己との対話についても確実に設定されている。



課題 「主体的な学び」と「対話的な学び」を意識して「深い学び」へと繋がる授業について実践を重ねることが今後の課題となっていくと考える。

〈高等部〉

4. (資料) 単元・題材構想シート

(H30年3月岩手県立総合教育センター「資質・能力の「三つの柱」を総合的にはくむ授業の在り方に関する研究」の考え方・資料を参考にし、花清バージョンとして作成)

学部	学年・グループ	教科／単元・題材名	対象児童・生徒	研究グループメンバー(○…代表者)
高等部	調理班	作業学習「弁当販売に向けて」	1年 K・H	

1 単元・題材の目標【ゴール像:目指したい「深い学び」(何ができるようになるか)】

- ・お客様に喜んでいただけるような弁当(栄養バランス・味・色どりなど)を作ることができる。
- ・自分の役割を仲間と協力しながら、取り組むことができる。

2 単元・題材の指導計画と主たる学び

小単元名 (時数・日にち等)	学習グループ全体の 学習内容	対象児童・生徒に対する 学習のねらい	対象児童・生徒への手立て・支援 ⑤:主体的な学びを引き出す手立て・支援 ⑥:対話的な学びを引き出す手立て・支援	手立て・支援の評価・改善案
弁当作り計画 8/30・3h 9/4・3h 9/5・3h 9/7・3h	・販売時期・弁当メニュー計画 (季節の食材・栄養バランス等を考えながら話し合う) ・チラシ作り	・自分の意見を話したり、仲間の意見を聞いたりしながら、適したメニューを考えることができる。	⑤:季節の食材・バランスの取れたメニューを写真等で提示したりタブレットを活用したりしてメニューを検索したりなど考えるヒントを与える。 ⑥:仲間との意見交換ができるように、小グループを作り、グループ毎に話し合う場面を設定する。	・ヒントを提示したことで自分から進んでメニューを調べる姿が見られた。 ・仲間と好きなメニューについて活発な話し合いができたが、他の話しをすることがあった。
弁当作り練習 9/11～13 ・9h	・グループ練習 (1グループ1品)	・集中して丁寧に正確に調理することができる。	⑤:無駄話や雑な行動が見られた場合は、注意を促す。 ⑥:グループ内で役割分担やレシピを確認する場面を設定する。	・自分の役割を意識したことで問題となる行動が減少し作業に向かう姿勢が出てきた。不安になると声を出すことがある。
弁当作り練習 9/14～ 20・12h	・全体練習(全品) ・チラシ配り	・グループの仲間と協力しながら自分の仕事に責任をもって行うことができる。	⑤:自信を持って行うために繰り返し練習する場面を設定する。 ⑥:グループ内で準備、洗い物、計量等、リーダーを中心に声をかけ合いながら進める場面を繰り返し設定する。	・手順を覚えるまで練習したことで自分の作業に取り組むことができるようになった。時間を意識した作業が難しい。
弁当作り本番 9/25～ 26・6h	・販売用弁当作り (高等部販売)	・集中して丁寧に正確に弁当作りに取り組むことができる。 ・自分の役割に責任をもち、仲間と協力しながら取り組むことができる。	⑤:販売先と販売個数を明確に知らせ、おいしくつくるために、丁寧に自分の役割に自信を持って行うために繰り返し練習する場面を設定する。 ⑥:グループ内で準備、洗い物、計量等、リーダーを中心に声をかけ合いながら進める場面を繰り返し設定する。	・販売個数を意識したことで時間や作業効率について気にする様子が見られた。 ・先輩の指示を聞き、作業することができた。
「弁当作り・販売を振り返って」 9/27・3h	・振り返り	・役割に責任をもってできたか、丁寧に調理し、おいしくできたかなどについて振り返る。	⑤:個人の振り返りシートに記入して自分自身の活動について振り返る場面を設定する。 ⑥:グループ内で個人の振り返りを発表し合ったり、全体へグループ毎の様子を報告し合ったりする場面を設定する。	・シートに書くことによって自分の作業について考えることができた。仲間との話し合いからこれからの作業について意欲をもつことができた。

3 単元学習後の対象児童・生徒の姿(対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。)

4月当初は周りの友達とおしゃべりばかりする姿が見られたが、繰り返し作業に取り組むことで、作業の手順や自分の役割を意識して作業に取り組む姿が増えてきた。また、分からないことや自信のないことを声に出すだけでなく、リーダーや教師に質問として聞く態度を身につけることができた。製品を作るという意識が出てきており、作業に真剣に取り組む姿が見られるようになっている。

4 改善点等(手立て・支援は妥当だったか。)

タブレットや写真等を活用したことで自分から意欲的にメニューを考えることができた。それをもとに仲間と話し合いの活動を積極的に行うことができた。作業を繰り返すことで自分の役割を意識して作業に取り組むことが増えているため手立ては有効であった。仲間と考える活動を多く取り入れることができたが、一人で考える時間も設定することも必要であった。

<遠分小>

1. 今年度の研究について

(1) 進め方・目的等確認したことなど

- ・学部研では、全員で各取組を単元・題材構想シートを持ち寄って見合うことで、共通理解を図る。
- ・低学団と高学団の手立ての違いに気付いたり、お互いに生かせることを共有したりする情報交換の機会となるようにする。

(2) グループ編成について

基本的には低学団と高学団とするが、授業によっては分教室全体や学級、と様々なグループでの授業を対象とする。

時期	8月	9月	10月	11月	12月
グループ、 単元内容	(高) 生単 「校外学習」	(低) 生単 「校外学習」			
		(全体) 生単 「学習発表会」	→		
			(高) 体育 「ニュースポーツ」	→	
					(全体) 生単 「はなせいコンサート」
		(3年生) 日生 「朝の会」			→

2. 今年度実施した研究経過

期	日	全 体	主な内容
5月	2日(火)	第1回全校研究会	・平成30年度全体研究について
6月	6日(水)	研究日①(全体)	・具体的な進め方の検討
7月	9日(月)	研究日②(分教室①)	・グループ分け、年間計画の検討
9月	11日(火)	研究日③(分教室②)	・単元・題材構想シート評価①
10月	12日(金)	研究日④(分教室③)	・単元・題材構想シート評価②
11月	26日(月)	第2回全校研究会	・中間報告
12月	13日(木)	研究日⑤(分教室④)	・単元・題材構想シート評価③
	26日(水)	第2回研修報告会	
1月	31日(木)	研究日⑥(分教室⑤)	・平成30年度学部研究のまとめ
2月	25日(月)	第3回全校研究会	・平成30年度全体研究のまとめ ・次年度研究の方向性について

※研究過程で記入した「授業構想シート」の記入事例は、4. (資料) 授業構想シートを参照。

3. 考察

(1) まとめアンケートから(回答数7)

① 研究主題に迫った研究を進めることができたか。

- ・全員が「4迫ることができたと思う」「3まあ迫ることができたと思う」を選択していた。

<遠分小>

② 選択した理由(複数回答可)

- ・「ア. 職員間で意見交流をすることができたから」を7人全員が回答した。
- ・「イ. 授業づくり・授業改善に役立ったから」が5人で、回答が多かった。
- ・その他に「ウ. 普段の授業と合わせて負担なく進めることができたから」「エ. グループ研で少人数での話し合いだったから」「カ. 授業づくりには役立ったが、新学習指導要領の内容についてよくわからなかったから」に、それぞれ1人ずつ回答があった。

(2) 成果と課題

ア 全体研究に関して(研究会、研究授業の持ち方、運営方法)

成果

- ・アンケート結果より、研究主題に迫った研究をすすめることができたといえる。

課題

- ・中間アンケートや年度末のアンケートで「三つの柱についてはあまり意識できなかった」、「新学習指導要領の内容についてよくわからなかった」という意見が少数だが出ており、新学習指導要領の育成すべき資質・能力の三つの柱などについて、学習を深めていくことが今後の課題である。

イ 学部研究に関して(研究会、研究授業の持ち方、運営方法)

成果

- ・三つの学びを意識して授業づくりを行うことができた。逆に普段の子どもたちの様子から、このような対話的な姿があるのだと気付いたり、今までの指導支援も三つの学びにつながっていたのだと気付いたりすることがあった。
- ・単元・題材構想シートを活用することで、授業に入っている職員同士でねらいや手立て・支援の共通理解を図ることができ、様々な視点で指導にあたることができた。
- ・シートを活用することで、効果的な支援とそうでなかった支援を振り返ることができた。それを別の単元や場面でも活用しようするなど、次へつなげていくことができた。
- ・学部研究会では、各学団や学級で取り組んだ授業のシートを持ち寄って話し合うことで、普段接する機会の少ない児童について知ることができたり、支援方法について様々な意見を出し合ったりすることができ、分教室の児童について職員全員で考える良い機会となった。

課題

- ・今年度はまずシートを活用してみる、ということにとどまり、分教室内や他の分教室と授業を見合う機会を設けることができなかった。分教室は職員数が少ないので、授業を見合うことは難しいところもあるが、授業を録画し、研究会で見ながら意見交換できるとよい。
- ・シートを活用した取り組みは、校外学習や学習発表会などの行事的な単元が多く、教科が少ないという偏りがあった。来年度は様々な教科等で活用していく。

<遠分小>

4. (資料) 単元・題材構想シート

学部	学年・グループ	教科/単元・題材名	対象児童・生徒	研究グループメンバー(〇…代表者)
遠野分小	5,6年	生単「校外学習に行こう」	H・S	

1 単元・題材の目標【ゴール像:目指したい「深い学び」(何ができるようになるか)】
 (全体)・集団での活動のルールを守り、教師や友達と一緒に行動する。 ・公共施設のマナーを知る。
 ・ガラス製作体験やレストランの利用を通して、経験を広げる。
 (個人)・教師の話をよく聞き、校外学習について理解して質問に答えたり係の仕事に取り組んだりするなど、主体的に学習や活動をすることができる。

2 単元・題材の指導計画と主たる学び

小単元名 (時数・日にち等)	学習グループ全体の 学習内容	対象児童・生徒に対する 学習のねらい	対象児童・生徒への手立て・支援 ㊟: 主体的な学びを引き出す手立て・支援 ㊿: 対話的な学びを引き出す手立て・支援	手立て・支援の評価・改善案
-------------------	-------------------	-----------------------	---	---------------

中略

8/28 (火) 2,4校時	事前学習 体験について	・作業内容を理解して、なるべく一人で作業をすることが出来る。	㊿作業内容を分かりやすくイラストで示したり、実際の作業の動画を見せたりする。	・ほぼ一人で作業することができていた。(以前図工の時は説明をちゃんと聞いていなくて、できなかった) →作業内容や方法をきちんと理解できていたのではないか。
8/29 (水)	校外学習当日	・校外学習の目標を意識して活動することができる。	㊿係を前日や当日の朝に確認し、進んで挨拶の係をできるようにする。	・自分の係は分かっていたが、緊張や自信のなさからか、なかなか話せなかった。 →話すことをあらかじめ一緒に確認し、紙に書いてそれを見て話すようにする支援が必要だった。

後略

3 単元学習後の対象児童・生徒の姿 (対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。)
 ・全体目標である校外学習の目標は達成することができた。個人目標は、当日のサンドブラストの体験を一人で進めるなど、活動内容などを理解して取り組む姿が見られた。
 ・校外学習後の普通の授業で、積極的に手を上げて発言する姿があった。

4 改善点等 (手立て・支援は妥当だったか。)
 ○なかなか自分から積極的に発言ができないことについて
 ・学習の中で発言のルールを設定し、事前に確認してから始めるなどの支援も必要だった (ポイント制など)。
 ・自信のなさも理由としてあると思われるので、STが「それでいいんだよ」などと自信をもたせて発言できるようにする、という支援もあると良い。
 ・興味のあることや経験して分かっていることなどは、自分から発言しようとすることがあるので、そのような発問をして、引き出せると良かった。
 ○挨拶の係について・・・当日は、なかなかうまく話せなかった。
 ・事前に本人とどんなことを話すか確認をして紙面に残し、それを読む練習をしておけば、自信をもって話せたと思われる。支援が足りなかったため、今後に生かしていきたい。
 ○事前学習でサンドブラストと同じ作業を体験したことにより、当日の体験で主体的に取り組む姿が見られ、有効であった。
 ※目標設定について
 全体の目標について、校外学習そのものの目標を記入してしまったので、もっと事前事後学習を含めた単元全体の目標を立てるべきだった。

<遠分中>

1. 今年度の研究について

(1) 進め方・目的等確認したことなど

- ・単元・構想シートに記録して評価することで、授業の改善をしていく。
- ・特別活動の美化委員会での校内美化活動（窓拭き、草取り）を対象とする。
- ・自信や自己有用感を高めることを目標とし、人の役に立つ活動を積み重ねて生徒の変容を探っていく。

(2) グループ編成について

在籍生徒1名のため、単一の取り組み。

2. 今年度実施した研究経過

期 日		全 体	主な内容
5月	2日(火)	第1回全校研究会	・平成30年度全体研究について
6月	6日(水)	研究日①全体	・具体的な進め方の検討
9月	11日(火)	研究日②(分教室①)	・授業の評価
10月	12日(金)	研究日③(分教室②)	・授業の評価
11月	26日(月)	第2回全校研究会	・中間報告（分教室不参加）
12月	26日(水)	第2回研修報告会	
1月	28日(月)	研究日④(分教室③)	・平成30年度学部研究のまとめ
2月	25日(月)	第3回全校研究会	・平成30年度全体研究のまとめ ・次年度研究の方向性について

※研究日の他、毎週授業日の放課後に授業を評価した。

※研究過程で記入した「授業構想シート」の記入事例は、4.（資料）授業構想シートを参照。

3. 考察

(1) まとめアンケートから（回答数2）

① 研究主題に迫った研究を進めることができたか。

2名とも「まあ迫ることができた」に回答した。

② 選択した理由

2名とも「職員間で意見交流をすることができたから」「授業作り・授業改善に役立ったから」「今後の児童生徒の様子を見ないと分からないから」に回答した。

② 選択肢以外の理由

生徒の体調不良で、まとめの授業が未実施の状態である。検証する機会がなかったため、「3」を選択した。

<遠分中>

(2) 成果と課題

ア 全体研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

成果 まとめアンケート①より「まあ迫ることができた」という回答が 100%であった。これは、普段の授業に対して意見交換をし、毎時間の授業改善に役立てることができたためと思われる。

課題 アンケート集約の時点では、生徒の体調不良により、まとめの授業が実施されていず検証できない状況であったことも「迫ることができた」と確認できない要因であると思われる。

イ 学部研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

成果 授業者（T1）とT2及び記録者という形で取り組んだ。始めはT1，T2お互いに記録をためて研究会でまとめて確認することになっていたが、毎週の授業日の放課後に授業や生徒の様子を振り返ることにした。記憶が鮮明なうちに授業を評価し、反省を次の授業に活かすことができた。

記録をとることは、生徒の変容や状況が明確であり、良かった。

単元・題材構想シートに生徒の変容を記録する欄を設け、生徒が発した言葉を記録した。対象生徒なりの発見や人的広がりが見られる言葉があり、成長を伺うことができた。

課題 所属教職員が少数（実質2名）であり、すぐに取り組める日もあったが、出張などの他用務で研究会を実施できない週もあった。

〈遠分中〉

4. (資料) 授業構想シート (H30年度3月岩手県立総合教育センター「資質・能力の「三つの柱」を総合的に活かす授業の在り方に関する研究」の考え方・資料を参考にし、花清バージョンとして作成)

学部	学年・グループ	教科／単元・題材名	対象児童・生徒	研究グループメンバー(○…代表者)
遠中	1年	特活／委員会「美化活動(窓拭き)」	M, T	

1 単元・題材の目標【ゴール像:目指したい「深い学び」(何ができるようになるか)】

美化委員会での校内美化活動(窓拭き、草取り)を通して、人の役に立つことを経験し、自信や自己有用感を高める。

2 単元・題材の指導計画と主たる学び

小単元名 (時数・日にち等)	学習グループ全体の 学習内容	対象児童・生徒に対する 学習のねらい	対象児童・生徒への手立て・支援 ㊦:主体的な学びを引き出す手立て・支援 ㊧:対話的な学びを引き出す手立て・支援	生徒の様子	手立て・支援の評価・改善案
8月22日	窓拭き	・窓拭きの活動を継続させたい。	㊦ 前回の振り返り。反省を生かした目標設定。できた時は賞賛する。 ㊧ 一緒に窓拭きをしながら励ます。(意欲喚起)終了後の賞賛。	・本日の目標で「きれいにします。」という発言があった。 ・声をかけることで、「頑張りましょう」という発言があった。 ・T2の声がけに他者から見られていることを意識していた。	㊦ 反省会で、本日の成果と次時の目標を確認した。 ㊧ 声掛けの継続。
10月31日	窓拭き	・活動することのやりがいや楽しさを育てる。	㊦ 目標設定時に「端から端まで拭く」と具体的にポイント話す。 ㊧ 一緒に窓拭きをしながら励ましや清掃ポイントの確認をする。 ㊦ 反省時に今日の振り返りをする。	・開始時に自分から目標「きれいにする」を発表した。 ・Tが「はじっこから」と声を掛けると、「はじっこまで」と意識して拭く様子が見られた。一人で話しながら窓を拭く場面もあった。 ・「一人でしょっかなー。」と、自主的に雑巾洗いに取り組み始めた。	㊦ Tがリズムの良い声掛けをしたことで、リズムの良い動きが見られたり、自主的な動きに発展した。 ㊧ 反省時に生徒の言葉を取り上げ、良かったことを評価したことで、定着につながった。
1月16日	生徒総会	これまでの活動を振り返る。 活動内容を教師の前で発表する。	㊦ 活動内容の振り返り。注意したポイントなどを引き出す。議案書や発表用紙に記入し、意欲を引き出す。 ㊧ 教師が質問や感想を発表し、回答する環境設定をする。	・教師の支援を受けながら自分で生徒総会の次第を決めたり、会場を設営したりした。 ・予定外の質問や意見に対して、生徒なりの考えで回答することができた。 ・他生徒を意識して活動した「みんなのためです」という発言や、感謝の言葉に「嬉しかったです」と感情を表すことができた。	㊦ 総会の次第や台詞に顔写真を使用した事は、生徒が分かりやすく効果的であった。 ㊧ 事前に質問を予想し練習することで、発表態度が向上するだけでなく、予想外の質問に回答することができた。 ㊧ 全員で役割分担をしたことで、一体感を感じる事ができた。

3 単元学習後の対象児童・生徒の姿(対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。)

・対象の授業や活動以外にも、「～しましょう。」「～してください。」という発言が多く見られるようになったことより、自信や自己有用感が高まったと思われる。

4 改善点等(手立て・支援は妥当だったか。)

・活動だけでなく、道具の使い方(脚立の組み立て方、道具を丁寧に扱うなど)の指導を充実させたい。

〈北み分小〉

1. 今年度の研究について

(1) 進め方・目的等確認したことなど

- ・「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の3つの学びの視点を位置づけた授業づくりを行い実践することをおして、児童が生き生きと活動する授業を目指す。
- ・授業について協議することで、3つの学びの視点を位置づけた授業づくりについての共通理解を深める。

(2) グループ編成について

単元・題材名	時期	対象児童	授業者 (OT1)
音楽「なつの曲を楽しもう」	9月	小1男子	OH、F、K
音楽「クリスマスコンサートをしよう」	12月	小1男子	OH、F、K

2. 今年度実施した研究経過

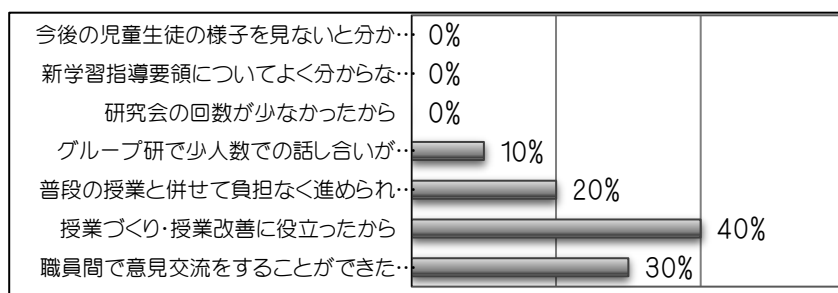
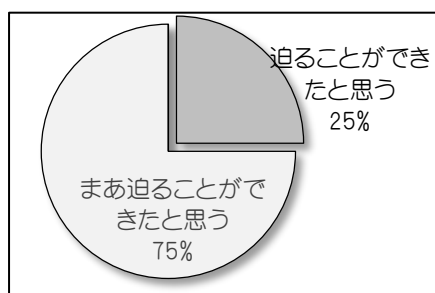
期 日		全 体	主な内容
5月	2日(火)	第1回全校研究会	・平成30年度全体研究について
6月	6日(水)	研究日①(全体)	・具体的な進め方の検討
7月	9日(月)	研究日②(分教室①)	・研究グループの確認、年間計画検討
9月	11日(火)	研究日③(分教室②)	・単元・題材構想シートの検討、研究授業指導案検討
	19日(水)	(分教室③)	・研究授業(第1回)、授業研究会
10月	12日(金)	研究日④(分教室④)	・単元・題材構想シートの検討
11月	26日(月)	第2回全校研究会	・中間報告
	29日(金)	(分教室⑤)	・単元・題材構想シートの検討、研究授業指導案検討
12月	7日(金)	(分教室⑥)	・研究授業(第2回)
	10日(月)	研究日⑤(分教室⑦)	・授業研究会(北み分中と合同)
	26日(水)	第2回研修報告会	
1月	21日(月)	研究日⑥(分教室⑧)	・平成30年度学部研究のまとめ
2月	25日(月)	第3回全校研究会	・平成30年度全体研究のまとめ ・次年度研究の方向性について

※研究過程で記入した「単元・題材構想シート」の記入事例は、4.(資料)単元・題材構想シートを参照。

3. 考察

(1) まとめアンケートから(回収数4)

① 研究主題に迫った研究を進めることができたか。② 選択した理由(複数回答可)



〈北み分小〉

(2) 成果と課題

ア 全体研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

成果

- ・ アンケート結果より、25%が「迫ることができた」、75%が「まあ迫ることができた」と回答しており、研究主題に迫ることができたと考える。
- ・ 3つの柱を意識して取り組むことにより授業研究を深めることができた。
- ・ PDCA サイクルを重視した取り組みを進めることによって、「今」の指導を充実させるとともに、主体的な活動を意識することができた。

課題

- ・ 新学習指導要領の内容の理解を深めることを継続していく。

イ 学部研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

成果

- ・ 単元・題材構想シートを活用することで、授業のねらいや手立てが明確になり授業改善に役立てることができた。また、職員同士の共通理解を図ることができた。
- ・ 三つの学びの視点を位置づけた授業づくりを深めることができ、児童が生き生きと活動する姿が見られた。
- ・ あい南・みなキラで授業研究会を行った。お互いの授業を見合い、意見交換をすることで指導力向上につながった。

課題

- ・ 児童が生き生きと活動するためには、学校生活のテーマ設定が大切である。「深い学び」に迫るために、音楽や各教科等でも、季節行事・学部行事を盛り込んだ年間の「学校生活のテーマ」を設定したい。

<北み分小>

4. (資料) 単元・題材構想シート

(H30年度3月岩手県立総合教育センター『資質・能力の「三つの柱」を総合的に捉え、授業の在り方に関する研究』の考え方・資料を参考にし、花清バージョンとして作成)

学部	学年・グループ	教科／単元・題材名	対象児童・生徒	研究グループメンバー(〇…代表者)
北み分小	1・2・5・6年	音楽「なつの曲をたのしもう」	T・S	〇K T1:H、F、K 記録:M

1 単元・題材の目標【ゴール像:目指したい「深い学び」(何ができるようになるか)】

- ア やさしい歌の旋律の一部分を自分から歌う。【知識・技能】
- イ 自分から教師や友達の前で発表する。【思考力・判断力・表現力】
- ウ 教師や友達と一緒に楽しみながら、自分から音楽活動に取り組む。【学びに向かう力】

2 単元・題材の指導計画と主たる学び

小単元名 (時数・日にち等)	学習グループ全体の 学習内容	対象児童・生徒に対する 学習のねらい	対象児童・生徒への手立て・支援 ㊦:主体的な学びを引き出す手立て・支援 ㊧:対話的な学びを引き出す手立て・支援	手立て・支援の評価・ 改善案
9月15日(火) なつの曲を たのしもう	<歌唱> ・うみ ・ABCのうた	ア「ABCのうた」の旋律 の一部分を歌う。 【知識・技能】	㊦:歌詞カードを目の前に提示する。 ㊧:T3が児童の近くで歌って手本を示す。	・アルファベットへの興味・関心が高いことから有効であったと考える。 ・教師の声を聞いて、時々歌う様子が見られた。
9月18日(火) なつの曲を たのしもう	<身体表現> ・手をつなごう <器楽> ・ミッキーマウスマーチ <鑑賞> ・ちいさいうみ おおいうみ ・はらぺこ あおむし	イ 発表場面で挙手をし て発表をする。 【思考力・判断力・表現力】	㊦:T1が対象児童の目の前で手を挙げながら、発表したい人を募る。 ㊧:T3が手を挙げる手本をすることで児童の挙手を促す。	・感想発表場面で、自分から挙手をした。楽しかった曲として、「手をつなごう」を選び発表することができた。 ・自分から挙手をした。児童の目の前で手を挙げる支は、有効だった。
9月19日(水) なつの曲を たのしもう		ウ「はらぺこあおむし」 で、大型絵本に注目し ながら楽しく鑑賞する。 【学びに向かう力】	㊦:内容をイメージしながら楽しく鑑賞できるように、曲に合わせて絵を指差す。 ㊧:蝶々の場面で、児童の目の前で絵本をパタパタ動かす。	・絵本の好きなページでは、にこにこしながら口ずさむ場面が見られた。 ・蝶々の絵に注目し、楽しそうに笑っていた。支援は有効だった。

3 単元学習後の対象児童・生徒の姿 (対象児童・生徒に対する単元の目標は達成できたか。)

- ・歌の旋律を自分から歌う様子が見られた。
- ・授業の流れが分かり、感想発表の場面では自分から積極的に挙手をし、友達の前で楽しかった曲名を発表することができた。
- ・教師や友達と一緒に楽しみながら、音楽活動に取り組むことができた。

4 改善点等 (手立て・支援は妥当だったか。)

- ・音楽の4分野<歌唱・身体表現・器楽・鑑賞>を分けない方法もあるのではないか。(例:歌唱しながら身体表現)
- ・授業に見通しを持っているからこそ主体的にできる反面、あきる児童がいる。

<北み分中>

1. 今年度の研究について

(1) 進め方・目的等確認したことなど

- ・全職員が関わり、短期間ではなく長期間取り組む「作業学習」で研究を進める。
- ・授業研究会は授業の様子をビデオに撮り、後日、北み分小の職員に見てもらい意見交換を行う。

(2) グループ編成について

単元・題材名	時期	対象生徒	授業者 (〇T1)
作業学習	6月～12月	中2女子 S・E	〇0、I、Y

2. 今年度実施した研究経過

期 日	全 体	主な内容	
5月 2日(火)	第1回全校研究会	・平成30年度全体研究について	
6月 6日(水)	研究日①全体	・具体的な進め方の検討	
7月 9日(月)	研究日②(分教室①)	・年間計画	
9月 11日(火)	研究日③(分教室②)	・振り返り、改善案検討	
10月 12日(金)	研究日④(分教室③)	・校内研究のアンケート ・振り返り、改善案検討	
11月	26日(月)	第2回全校研究会	
	28日(水)	(分教室④)	・授業研究会 (北み分中)
12月	10日(月)	(分教室⑤)	・授業研究会 (北み分小)
	11日(火)	研究日⑤(分教室⑥)	・振り返り、改善案検討
	26日(水)	第2回研修報告会	
1月 21日(月)	研究日⑥(分教室⑦)	・平成30年度学部研究のまとめ	
2月 25日(月)	第3回全校研究会	・平成30年度全体研究のまとめ ・次年度研究の方向性について	

※研究過程で記入した「単元・題材構想シート」の記入事例は、4. (資料)単元・題材構想シートを参照。

3. 考察

(1) まとめアンケートから(回答数3)

① 研究主題に迫った研究を進めることができたか。

- ・2/3の職員が「4迫ることができたと思う」を選んだ。
- ・1/3の職員が「3まあ迫ることができたのではないかと思う」を選んだ。

② 選択した理由(複数回答可)

- ・全職員が「ア. 職員間で意見交流をすることができたから」を選んだ。
- ・2/3の職員が「イ. 授業づくり・授業改善に役立ったから」を選んだ。

<北み分中>

(2) 成果と課題

ア 学部研究に関して（研究会、研究授業の持ち方、運営方法）

- 成果**
- ・ 指導・支援のあり方を考えるときに、三つの学びを意識してより良い手立てを考えるようになった。
 - ・ 単元・題材構想シートを記入、活用したことで、職員間で意見を出しあい、共有し、生徒のめざす姿にせまれるよう指導・支援することができ、生徒に変容が見られた。
 - ・ 学部研で手立てや支援を見直すことで、PDCA サイクルを円滑に進めることができた。
 - ・ 北み分小・中で授業研究会を行い、お互いに授業の様子をビデオで見て意見交換することができた。
- 課題**
- ・ 北み分小の職員と授業研究会を行い意見交換することができたが、作業学習を行っている学部職員とも意見交換ができると良かった。
 - ・ 他学部、他グループの授業の様子を見る機会が少なかった。

<北み分中>

4. (資料) 単元・題材構想シート

(H30年度3月岩手県立総合教育センター『資質・能力の「三つの柱」を総合的にはぐくむ授業の在り方に関する研究』の考え方・資料を参考にし、花清バージョンとして作成)

学部	学年・グループ	教科/単元・題材名	対象児童・生徒	グループメンバー(○…代表者)
北み分中	2 学年	作業学習 (後期校内実習含む)	S・E	○O、Y、I

1 単元・題材の目標【ゴール像:目指したい「深い学び」(何ができるようになるか)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や返事、報告を自分から行うことができる。 ・自分の作業に集中して取り組むことができる。 				
2 単元・題材の指導計画と主たる学び				
小単元名	学習内容	学習のねらい	対象生徒への手立て・支援	手立て・支援の評価・改善案
作業を覚えよう (6～7月)	作業学習 ・木工 ・紙工 ・手工芸	・自分からすばやく報告する。	㊦ ㊦ 報告カードを用意し、報告の仕方を視覚的に提示する。	〈評価・生徒の様子〉 ・報告カードがあると、自分から報告できる。カードがないと報告の仕方は分かっているが、自分から話せない。 〈改善案〉 ・なし。継続して使用する。
		・手元を見て作業する。 (よそ見をしない)	㊦ 作業位置の工夫。他の生徒の動きが視界に入りにくい廊下側を向いた席に座る。	〈評価・生徒の様子〉 ・廊下を向いた席だと他の席よりよそ見が少ないが、まだ他の生徒の動きや声気が気になり、よそ見や作業ミスが見られる。 〈改善案〉 ・他の生徒がいない別室で作業をする。
こたままつりに向けて製品を作ろう (8～9月)	作業学習 ・木工 ・紙工 ・手工芸	・自分からすばやく報告する。	㊦ 組み紐の手順表の最後に「報告する」を入れる。	〈評価・生徒の様子〉 ・めくり手順表の最後のページに「報告する」が書いてあることで、忘れずに報告することができた。手順表をめくる動作が遅く、報告までに時間が掛かる。 〈改善案〉 ・手順表の最後ではなく、最後の作業手順のページ下に「報告する」を記入する。
		・手元を見て作業する。 (よそ見をしない)	㊦ 作業場所の工夫。他の生徒がいない別室で作業をする。	〈評価・生徒の様子〉 ・廊下側を向いた席での作業より、別室での作業の方がよそ見をせず、手元を見て作業できている。作業ミスが少ない。 〈改善案〉 ・組み紐作業は、継続して別室で行う。作業内容によっては、廊下側を向いた席で作業する。

生徒の作業の様子を見て、すばやく報告するための支援を追加し、よりゴール像に近づくことができた。

手立て・支援の改善案を実行・検証し、比較することができた。

<寄宿舍>

1. 今年度の研究について

全体研究の主題にならない、寄宿舍の研究主題を「生きがいのある豊かな生活の実現を目指して」とし、副題を「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を位置づけた話し合い活動を通して」とした。

普段行っている支援が、新学習指導要領に示された三つの学びを位置づけた支援になっているかどうかを確認し、この視点における効果的な支援方法の共有を図り、棟での「話し合い活動」の場面から生徒の自己表現力の向上や、主体性を引き出していくための実践を行った。

(1) 進め方・目的等確認したことなど

生徒が主体的に活動する姿を目指し、以下のように「話し合い活動で目指す生徒の姿」を定め、共通理解を図った。実践では「話し合い活動」の場면을より多く設定し、「話し合い活動評価シート」や「指導実践チェックシート」を用いて検証し、評価、改善していくことにした。

＜ 話し合い活動で目指す生徒の姿 ＞

- (1) 目標をもって、自ら行動する姿
- (2) 自分の役割を果たそうとする姿
- (3) 自分の考えを相手に伝える姿
- (4) 仲間と関わることに喜びを感じ、相手の気持ちを考えて発言や行動する姿

(2) グループ編成について

棟行事だけでなく、舎生会行事についても棟で話し合う機会が多く、より継続的な支援が期待できる点から棟毎に取り組む。

2. 研究の方法

話し合い活動の視点		方法
分かる (何を学ぶか)	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しのもてる計画、内容 ・話し合う環境の構造化 ・目標、課題の明確な提示 	<ul style="list-style-type: none"> ○話し合い場面における課題の整理 ○話し合う内容、目標の検討と共有 ○活動内容ややり方の明確化、導入、掲示
できる (どのように学ぶか)	<ul style="list-style-type: none"> ・グルーピング、職員の数、配置の工夫 ・話し合い活動の場面設定 ・働き掛けの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○自発的な行動を支える環境設定 ・物的環境設定（配置、板書など） ・人的環境設定（職員の配置、役割、働き掛け） ○生徒が考えてできる場面設定 ○生徒が考えるきっかけとなる働きかけの工夫
振り返る (何ができるようになるか)	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合い活動の振り返り ・評価方法の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ○実践結果から検証、評価、改善 ・「話し合い活動の評価シート」資料1 「支援実践チェックシート」資料2の活用

<寄宿舍>

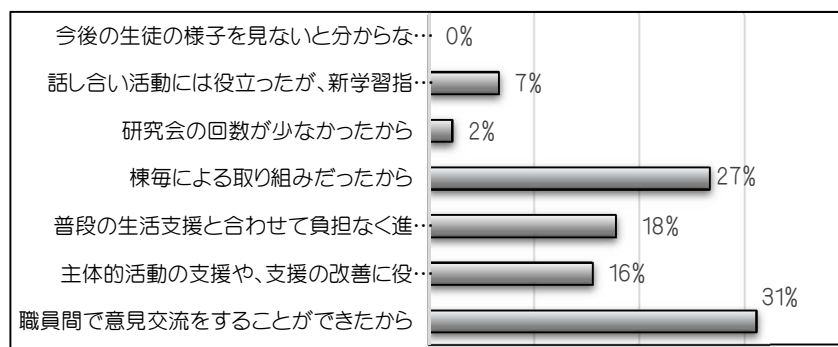
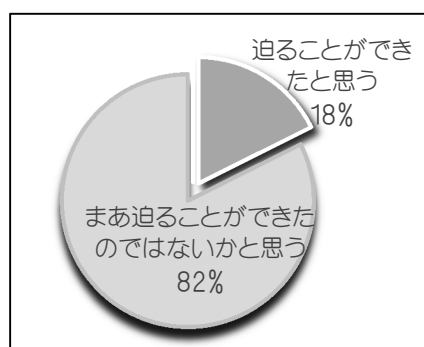
3. 今年度実施した研究経過

期 日	全 体	主な内容	
5月 2日(火)	第1回全校研究会	平成30年度全体研究について	
5月 18日(金)	研究会①(舎全体①)	具体的な進め方の検討	
9月 20日(木)	研究日①(棟①)	研究内容、方法、年間計画の検討と確認	
10月 26日(金)	研究会②(舎全体②)	実践報告、検証、改善、今後の取り組みについて	
11月	22日(木)	研究日②(棟②)	校内アンケート結果、指導実践チェックシート記入
	26日(月)	第2回全校研究会	中間報告
12月	14日(金)	研究日③(棟③)	実践の検証、改善、今後の取り組みについて
	27日(木)	研修会	「タブレットの活用について」
1月 25日(金)	研究会③(舎全体③)	年間反省とまとめ(アンケート記入、棟振り返り)	
2月 25日(月)	第3回全校研究会	平成30年度全体研究のまとめ 次年度研究の方向性について	

4. 考察

(1) まとめアンケートから(回答数17)

① 研究主題に迫った研究を進めることができたか。 ② 選択した理由



(2) 成果と課題

ア 全体研究に関して

成果 上記のアンケートから、全体的に概ね研究主題に迫る取り組みができたという回答を得ることができた。理由としては「職員間で意見交流をすることができたから」が多くを占め、次いで「棟毎による取り組みだったから」が多かった。日常的な活動をテーマに取り上げたことで、日々の生活の中で指導ができ、負担なく取り組むことができた。また、普段、支援の共有を図っている棟職員間では意見交換がしやすかったことが上げられている。

課題 少数ではあるが「新学習指導要領の内容について分からなかった」と回答があり、今後理解が求められるところである。

各棟それぞれで話し合いのテーマを設けたが、研究をより深めるために共通のテーマで話し合い、比較、検証を行ってみるのも良いのではないかという意見があった。

イ 棟毎の研究に関して

成果 話し合いの視点やルールを決めたことで、職員だけでなく生徒側も話し合いが進めやすくなり、話し合い活動の形ができてきた。また、職員間で意識して支援方法を吟味、工夫するようになった。シートを使って振り返ることで客観的な評価ができ、効果的な指導について共有することができた。

<寄宿舍>

課題 行事の多い時期は準備のための時間が十分にとれなかった。環境整備や司会進行、参加者への配慮とサポートなど職員間の綿密な打ち合わせが重要となるので、計画的に取り組む必要がある。到達点に向け段階を踏まえた目標設定も必要だった。

意思表示が弱い生徒への支援として、小グループで話し合う場があると良い。一人一人の意見が活動つながっていくことが実感できる取り組みが必要である。

5. 資料

話し合いのルール


＜話し合いのルール＞

話し方

1. 話したいときは手を挙げて、指名されてから話す。..
2. 名前を呼ばれたら「はい」と返事をする。..
3. はっきりと大きな声で話す。..
4. 丁寧に話す。「～です。～ます。」..
「私は、～だと思います。その理由は、～だからです。」..
「私は〇〇さんに賛成です。(反対です。)理由は～だからです。」..

聞き方

1. 話を聞くときは、話している人の方を見る。..
2. 話を遮らず、最後まで静かに聞く。..
3. 話を聞くときは他のことはしない。..
4. 発表を聞いてうなづいたり、「いいと思います。」など共感する。..




＜話の聞き方、話し方を覚えよう＞

姿勢

顔を上げる

背筋を伸ばす



聞く

話す人の顔を見る
最後まで聞く
頷いたり共感したりする

話す

相手の顔を見る
はっきりと、丁寧に話す
「～です。」「～ます。」

話し合い活動評価シート

話し合い活動評価シート			
評 価 日	評 価 者	実 施 日 ・ 内 容	
平成20年12月21日(金)	ひさお先生	平成 20 年 月 日 () 【評議会 発表準備】	
1 目標・ねらい【ゴール後：目指したい「話し合い」(何ができるようになるか)】			
『自分で選び、意見を言うことができる。』			
2 評 価 内 容			評価 (どちらかに○)
			良い 不十分
分かる 説明が できる 説明が できる	1	話し合いの題材は適切だったか	
	2	見聞きする内容が適切だったか	
	3	話し合いの目的は明確だったか	
できる 説明が できる	4	人数(グループ)は適切だったか	
	5	時間配分の確保はできていたか	
	6	時間配分、役割の工夫は適切だったか	
説明が できる	7	話し合える雰囲気(関係づくり)になっていたか	
	8	話し合いが予定にならぬ場合の対応ができたか	
	9	話し合いの内容は適切だったか	
10 話し合える雰囲気、話し方など思いついた評価をしたか			
自由記述			

指導実践チェックシート

指導実践チェックシート			
評 価 日	評 価 者	実 施 日 ()	内 容
【自己評価基準】			
4 正しい・よく聞いている			
2 聞かずに聞いている			
2 中々不十分・あまり聞かずに聞いている			
1 不十分・聞かずに聞いている			
評 価 内 容			
基 本 的	1	議事・議題、内容や話し合いの趣意を十分行っている。	4-2-2-1
	2	生徒からの反応や態度に気づき、受け止めている。	4-2-2-1
	3	事象について整理、共有したうえで、思いついた意見を述べている。	4-2-2-1
議 事 進 行 を 支 援	4	発言を待つための機軸が整っている。	4-2-2-1
	5	分かりやすい場や距離感の調整を行っている。	4-2-2-1
	6	生徒の発言を踏まえ、指導のねらいが適切に設定されている。	4-2-2-1
議 事 進 行 を 支 援	7	発言の時間配分の設定が適切である。	4-2-2-1
	8	発言に際する見出しや意識がもたらしている。	4-2-2-1
	9	発言に際して突然の発言について、思慮を促して対応している。	4-2-2-1
議 事 進 行 を 支 援	10	発言の発言者や発言の場を工夫している。	4-2-2-1
	11	生徒同士が話し合える、話し合える雰囲気や態度を設定している。	4-2-2-1
	12	協議内で進捗して、意見を共有している。	4-2-2-1
自由記述			

<寄宿舍>

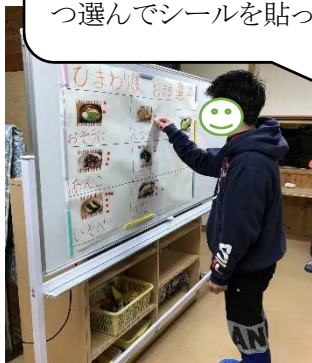
話し合い活動評価シート（例）

評価日	対象	実施日・内容
平成30年12月21日（金）	ひまわり棟	平成30年12月12日（水） 「新年会 おもち選挙」

1 目標・ねらい【ゴール像：目指したい「深い学び」(何ができるようになるか)】				
「 食べたい餅を2種類選ぶことができる。 」				
2 評価内容			評価（どちらかに○）	
			良い	不十分
分かる ※何を学ぶか	1	話し合いの題材は適切だったか	○	
	2	見通しをもてる内容になっていたか	○	
	3	話し合いの目的は明確だったか	○	
できる ※どのように学ぶか	4	人数（グルーピング）は適切だったか	○	
	5	職員間の連携はできていたか	○	
	6	時間配分、場所の工夫は適切だったか	○	
	7	話し合える雰囲気（関係づくり）になっていたか	○	
振り返る ※何ができるようになるか	8	話し合いが活潑になるような働きかけができたか	○	
	9	話し合いの内容は適切だったか	○	
	10	話の聞き方、話し方など場に応じた指導をしたか	○	
自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・「2」＝新年会行事の餅つきについてのみだった為、分かりやすかった。 ・「4」＝全体で行った。 ・「5」＝生徒がかりやすい方法を相談し、準備することができた。 ・「8」＝食べたい餅の種類を決めるための棟会だったが、話し合い形式ではなく、言語理解や意思表示が弱い生徒も選択できるように、餅の画像を掲示し、シールで投票する方法をとった。人の意見に流されたり、理解しないまま選択するということがなく方法として非常に良かった。 			

司会者に向って縦列で座席固定したことで、話し合う雰囲気ができた。

ラベルシールを2枚配付。
6枚の画像から、好きな餅を2つ選んでシールを貼った。



目に入りやすく、分かりやすい大きな写真を使用した。

